

■ドイツ：原子力発電所の停止で冬季に大規模停電の可能性

2011年5月24日付業界紙によると、ドイツの系統運用者（TSO）4社は、2011年5月23日、現在運転の一時停止措置が取られている原子力発電所が解列されたままの状態が続けば、今冬に大規模停電が発生する可能性があるとの共同声明を発表した。ドイツ政府は2011年3月15日、福島第一原子力発電所事故を受けて、1980年以前に建設された原子力発電所7基の一時停止を決定していた。共同声明では、これまでのところ低位で推移した需要と太陽光発電量の増加と相対的に低位で推移した風力発電により安定供給が保たれていたが、夏季に向けて系統運用で対応できる余地は少なく、この状況が続けば冬季にはドイツ南部で200万kWの電力不足が生じる可能性があり、安定供給を保証できないとした。また、TSO4社は、連邦系統規制庁と共同で今後数週間をかけて状況の分析を続ける予定である。ドイツエネルギー・水道事業連合会によると、2010年の発電電力量に占める原子力発電の比率は23%となっている。